

# 琴高 人権・同和教育だより（1 学期号）

## 2024 年度 人権講演会

まき しゅういち  
牧 秀一さん（NPO 法人「よろず相談室」元理事長）  
『希望を握りしめて～人は人によってのみ救うことができる～』

講師の牧さんは、阪神・淡路大震災のあとに、被災者の生活支援に取り組む「よろず相談室」を設立され、高校の教員として働く傍ら、被災した高齢者の方や震災により障害を負った方たちとの交流を続けられてきました。また、本校のとらすとK設立にも尽力いただきました。

講演では、さまざまなかたちで被災者から被災者への差別があったこと、震災後のすれ違いで家庭崩壊や一家離散になった家族がいたこと、避難所や仮設住宅に入ることによってこれまで培ってきた地域のコミュニティが分断されたことなどを、なぜこのようなことが起こってしまうのか、生徒たちと意見を交わしながら、みんなで考えていきました。また、『生きているだけまし』だと、震災後に 11 年ものあいだ忘れられていた震災障害者の方のお話もありました。

牧さんが語られた、「1 度来て終わりやない。忘れてないよのメッセージを送り続けること。」とのお言葉からは、まわりと関わることを避け、孤立無援で苦しむ人たちに寄り添う際のこころのあり方を感じました。そういった意味では、とらすとKの活動は、「まさにずっと関わっていくこと。どのようなかたちでもずっと関わっていくことが大切。」と、本校の活動にお褒めの言葉もいただきました。



また、牧さんは震災によってさまざまな立場に置かれた人たちと関わるなかで、

- (1) 楽しい思い出をたくさん作ること
- (2) 頑張りすぎないこと
- (3) 同じ境遇の仲間たちと集まること

の3つを伝えてきたと語られます。これは、苦しい状況にあるときこそ、ひとりで背負いすぎず、ひとりで抱え込まないで、仲間と一緒に乗り越えていくことが大切ということだと思います。今回の講演にあった震災という状況だけでなく、さまざまなことで悩み苦しむ人たちにも共通して言えることではないでしょうか。

いつ、どこで、誰が被害を受けるかわからない自然災害。誰もが当事者になる可能性があるからこそ、今日の講演はたいへん有意義なものでした。みんなが苦しい状況に置かれたときに、人権はないがしろにされることがあります。そのようなときに、一人ひとりの人権が考えられるようにするには何が大切か、ご家庭でもお子さんと一緒に話してみてもらえたらと思います。

裏面に、生徒たちの感想の一部をいくつか紹介いたします。



